

松下幸之助の「自らを育てる」

経営の基礎は人である

この会社がよくなるのも悪くなるのも、この会社が事業を通じて社会に貢献するものしないのも、すべて従業員の考え一つによって決定されるのである。したがって、個々の人々のものの考え方というものが非常に大事であり、まずそれらの個々の人々を成長させるということが絶対に必要である。

個々の力が幼稚であれば、幸いにして一致団結しても、その力というものは結局その範囲を出ないと思うのである。

1968年（昭和43）「繁栄のための人材育成を」